vinetur

Wilding Brands、デンバーの醸造所を閉鎖 自社でのビール製造を終了

Canworks工場の40バレル仕込み設備と26基の発酵タンクを競売に出品し、醸造を外部委託する方針

2026年11月9日（月）



Wilding Brandsはデンバーの醸造所兼製造施設を閉鎖し、ビール製造を外部メーカーに委託する。同社のCanworks工場があるサニーサイド地区での自社醸造はこれで終了する。

今回の変更の対象となる施設は3万5,000平方フィート（約3,252平方メートル）で、コロラド州における同グループの醸造拠点として機能してきた。施設内の設備はすでに売却に向けた準備が進められており、生産体制の変更が実行に移されつつあることを示している。

BusinessDenは11月5日、Wilding Brandsが閉鎖と、現地での自社醸造を委託生産に切り替える計画を認めたと報じた。その後、BeerAlienも11月7日、先の発表と工場設備の競売出品を根拠に、この

動きを報じた。

New Mill Capitalの競売カタログによると、Canworksの設備は11月10日火曜日から11月17日まで競売にかけられる。出品物には40バレルの仕込み設備と容量の異なる26基の発酵タンクのほか、醸造・包装関連の設備が含まれる。売却総額の見込みは公表されていない。

現在明らかになっている情報が示すのは、同社ブランドの消滅ではなく、ビールの製造方法の変更だ。Wilding Brandsはデンバーの自社工場での製造を取りやめ、第三者に委託する方針。後継となる製造業者の名前や契約条件は公表していない。

サニーサイド工場で最後の仕込みがいつ行われたかについても、同社は明らかにしていない。報道では最終生産日が示されておらず、競売日程以外に、現地での醸造業務を全面的に終了する時期も公表されていない。

競売資料に記載された設備の詳細からは施設の規模を把握できるが、事業規模までは分からない。3万5,000平方フィートという数字は工場の広さであり、年間売上高やビールの総生産量を示すものではない。同様に、40バレルの仕込み設備と26基の発酵タンクは設置された生産能力を示すが、同社は比較可能な生産実績を公表していないため、同工場から失われる醸造量を測ることはできない。

そのため、今回の移行による財務面への影響も依然として不明だ。Wilding Brandsは、見込まれるコスト削減額、新たな委託醸造体制での生産目標、利益率への影響の試算を公表していない。こうした数字がなければ、固定費の削減や生産能力の変化、あるいは供給方法の変更を同社が見込んでいるのか判断できない。

閉鎖に伴うデンバー施設の雇用への影響も明らかになっていない。報道では影響を受ける従業員数や、配置転換の提案の有無、醸造停止後も残る職種は示されていない。また、倉庫、品質管理、事務など、現地に関連する製造以外の業務をデンバーで継続するかどうかも同社は説明していない。

クラフトビール業界では、ブランドを市場に残しながら工場の所有・運営コストを抑えるため、委託醸造を活用する企業が多い。ただし、Wilding Brandsは今回の理由を詳しく公表しておらず、特定の販売動向、資金調達上の問題、生産上の課題と結びつけてもいない。現時点で明らかなのは原因よりも運営上の結果だ。デンバーの醸造所が閉鎖され、設備は競売にかけられ、そこで製造されていたビールは別の場所で醸造されることになる。

Canworksの施設は、デンバーでよく知られた工業・複合用途地域の一角にある。醸造設備一式の売却は、事業転換の大きさを浮き彫りにしている。競売カタログが出るのは通常、施設からの撤退、事業再編、または主要な据え付け設備の売却を進める場合だ。今回の出品物も、予備品や余剰品ではなく、醸造の中核を担う設備に及んでいる。

BusinessDenが報じた同社の発表にも、その後のBeerAlienの記事にも、工場の年間生産量は記載されていない。また、両記事が引用した公開資料にも、Wilding Brandsのビール事業全体の閉鎖を示す内容はなかった。確認できるのは、対象を絞ったものの重大な方針転換だ。同社はデンバーの製造拠点で醸造を直接管理することをやめ、ブランドへの供給を続けるために外部の製造業者に依存することになる。